

国語科シラバス

茨城県立神栖高等学校

教 科 名		国語	単位数	3	教科書等	新編 古典B 言葉の世界へ
科 目 名		古典B	教 材 等			
目 標		古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。				
評価の観点		関心・意欲・態度		読む能力		知識・理解
観点の趣旨		古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。		古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。		伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察	○		○		—
	提出物・課題等	○		—		○
	定期考査等	—		○		○
観点の重み（％）		30		35		35

学期	月	単元内容（単元名）		具体的な学習内容
第1学期	4	古文編 一 不思議な話 説話	・北叟が馬（古今著聞集）	・作品に登場する人物の行動や心情を読み取り、説話文学のおもしろさを味わう。 ・動詞の活用について、読解と関連させながら確認する。 ・それぞれの随筆について、特色を比較しながら文学史的な基礎知識を理解する。 ・形容詞と形容動詞について、読解と関連させながら確認する。 ・描かれた題材を正確に読み取り、表現の特色や作者のものの見方、感じ方、考え方について考える。
	5	二 感性のはばたき 随筆	・丹波に出雲といふ所あり（徒然草） ・神無月の頃（徒然草）	
	6	漢文編 一 機知と笑い	・行く川の流れ（方丈記） ・かたはらいたきもの（枕草子）	
	7		・此必苦李（世説新語） ・畏饅頭（五雑組）	
第2学期	9	二 項羽と劉邦	・鴻門の会（史記） ・四面楚歌（史記）	・重要語句や使役・反語・受身・疑問・抑揚などの句型を理解する。 ・場面ごとに登場人物・構成・展開に即してあら筋を的確に把握する。 ・登場人物の行動やその背景にある心理を考える。 ・主な物語作品に関する文学史的な基礎知識を整理し、文学史の流れの中に位置づける。 ・通過儀礼や結婚に関する古典常識、また、和歌の修辞について整理する。 ・日記文学について、文学史的な基礎知識を整理する。 ・本文を正確に理解し、歌にこめられた心情や作者の人物像などについて理解する。 ・地図や視聴覚教材などを使い、旅程について確認する。 ・助動詞について、活用表を使って基礎知識を整理し、読解に結びつける。
	10	古文編 三 人を思う時 物語	・蓬萊の玉の枝（竹取物語） ・初冠（伊勢物語）	
	11	四 日々の記憶 日記	・阿倍仲麻呂の歌（土佐日記） ・門出（更級日記）	
	12		・『源氏』の五十余巻（更級日記）	
第3学期	1	六 戦いをめぐる人間像	・先帝入水（平家物語） ・能登殿最期（平家物語）	・『平家物語』について、文学史的な基礎知識を整理し、主な登場人物やあらすじを確認する。 ・登場人物の行動や心情を理解し、争乱の時代に生きた人々の姿について考える。 ・音便などの表現の特色を理解して音読する。 ・儒家・道家・法家など、いわゆる諸子百家の思想について、その概略を理解する。 ・疑問・仮定・使役・二重否定・比較などの句型を理解する。 ・それぞれの思想家のものの見方、考え方を理解するとともに、それらの思想が生まれた時代背景への理解を深める。
	2	漢文編 五 さまざまな思想（一）	・孔子の人となり（論語） ・不忍人之心（孟子）	
	3		・人之性悪（荀子）	

地 理 歴 史 科 シ ラ バ ス

茨城県立神栖高等学校

教 科 名		地理歴史	単位数	4	教科書等	詳説日本史（山川出版社）
科 目 名		日本史B（2年Ⅱ類）	教 材 等			
目 標		わが国の歴史の展開を諸資料に基づき総合的に考察し、伝統と文化の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、日本国民としての自覚と資質を養う。				
評価の観点		関心・意欲・態度	思考・判断・表現		技能	知識・理解
観点の趣旨		我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、授業を休まず、学習目標を達成しようと努力し、主体的に対応できる態度を育てることができる。	わが国の歴史の展開から各時代背景の影響と関連付けて考察し、文化と伝統の特色について認識を深め、その過程や結果を適切に表現している。		我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。	わが国の歴史の展開についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けることができる。
評価方法	学習状況の観察	○	○		○	—
	提出物・課題等	○	○		○	—
	定期考査等	—	○		○	○
観点の重み（％）		2 5	2 0		1 5	4 0

学期	月	単元内容（単元名）		具体的な学習内容
第 1 学期	4	第Ⅰ部 原始・古代 第 1 章 古代社会の形成	1. 日本文化のはじまり 2. 農耕の開始 3. ヤマト政権と古墳	・日本列島の原始・古代における各時代の文化や国家の形成を自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解する。 ・教科書などの考古資料を使い、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて各文化の社会について考察する。 ・律令体制に基づく、統治組織・官僚制・土地と農民の把握・税制について理解する。 ・文化の形成について、大陸との交流を踏まえて考察する。 ・文献資料を基に、政治抗争の進展と土地制度の変容を関連付けて考察する。 ・藤原氏の権力掌握と摂関政治の成立過程を理解する。 ・文献資料を活用し、地方支配の状況を考察できる。 ・中世国家と社会や文化の特色に関心がある。 ・中世国家と社会の文化の特色に関する資料を適切に選択し、効果的に活用できる。
	5	第 2 章 律令国家の成立	1. 律令国家の成立 2. 律令国家の繁栄 3. 律令国家の変質	
	6			
	7	第 3 章 貴族政治の展開	1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 荘園の発達と武士の台頭	
第 2 学期	9	第Ⅱ部 中世 第 4 章 武家社会の形成	1. 院政と平氏の台頭 2. 鎌倉幕府の成立と発展 3. 蒙古襲来と幕府の衰退 4. 鎌倉文化	・武家政権や鎌倉幕府の成立過程を理解する。 ・諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を考察する。 ・現代につながる地域文化の特色について、諸資料を効果的に活用できる。 ・近世国家と社会や文化の特色に対する関心がある。 ・近世国家と社会や文化の特色に関する諸資料を適切に選択して、効果的に活用することができる。 ・領国統治を強化した戦国大名と、戦国期の日本の多様性を考察する。 ・織田・豊臣の政権の特色と意義、徳川による江戸幕府の成立と幕藩体制について理解する。 ・近世国家と社会や文化の特色についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解する。
	10	第 5 章 武家社会の成長	1. 室町幕府の成立 2. 下剋上の社会 3. 室町文化 4. 戦国の動乱	
	11			
	12	第Ⅲ部 近世 6 章 幕藩体制の成立	1. 織豊政権 2. 江戸幕府の成立	
第 3 学期	1	第 7 章 幕藩体制の展開	3. 江戸初期の外交と文化	・幕藩体制の特質について、理解する。 ・初期外交から鎖国までの過程について、東アジアの動向と関連させて考察する。 ・諸産業の発達や進展、商業活動の拡大など経済の発展や、儒学の影響が文学・学問・美術等、各文化にどのように影響を与えたか理解できたか。
	2		1. 幕政の安定 2. 経済の発展 3. 元禄文化	
	3			

教 科 名		数学	単位数	3	教科書等	改訂版 新編 数学Ⅱ（数研出版）
科 目 名		数学Ⅱ		教 材 等	パラレルノート数学Ⅱ【基本～標準】（数研出版）	
目 標		いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
評価の観点		関心・意欲・態度		思考・判断・表現	技能	知識・理解
観点の趣旨		いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。		事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察	○		○	—	—
	提出物・課題等	○		○	—	—
	定期考査等	—		—	○	○
観点の重み（％）		20		20	30	30

学期	月	単元内容（単元名）		具体的な学習内容
第1学期	4	第1章 式と証明 第1節 式と計算 3次式の展開と因数分解 二項定理 整式の割り算 分数式とその計算	3次式の展開公式 3次式の因数分解 パスカルの三角形 二項定理、整式の割り算 等式A=BQ+Rの利用 分数式の約分 分数式の四則計算	・3次式の展開及び因数分解の公式を利用する。 ・二項定理とパスカルの三角形を結びつけて考える。 ・整式の割り算の計算方法を理解する。 ・整式の割り算の結果を等式で表して考える。 ・分数式を分数と同じように扱う。
	5	恒等式 第2節 等式・不等式の証明 等式の証明 不等式の証明	恒等式 恒等式の証明 条件付きの等式の証明 実数の大小関係、実数の平方、平方の大小関係 相加平均・相乗平均	・恒等式となるように係数を決定する。 ・恒等式、等式を適切に証明する。 ・実数の大小関係の基本性質、実数の性質、平方の大小関係を用いて不等式を証明する。 ・相加平均、相乗平均を利用する。
	6	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 複素数とその計算 2次方程式の解 解と係数の関係	複素数 複素数の計算 負の数の平方根 解の公式 2次方程式の解の種類の判別 解と係数の関係 2次方程式の決定	・複素数の表記を理解する。 ・複素数の四則計算。 ・2次方程式を解く。 ・判別式を利用して、2次方程式の解の種類を判別する。 ・解と係数の関係を活用する。
	7	第2節 高次方程式 剰余の定理と因数定理 高次方程式	剰余の定理 因数定理 高次方程式	・剰余の定理、因数定理を活用する。 ・高次方程式を1次、2次方程式に帰着させる。
第2学期	9	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 直線上の点 平面上の点 直線の方程式 2直線の関係	直線上の点、内分と外分 座標平面上の点 2点間の距離 内分点、外分点の座標 2直線の平行、垂直 点と直線の距離	・数直線上及び座標平面上において、2点間の距離、内分点、外分点を求める。 ・直線の方程式を表す。 ・2直線の平行、垂直条件を利用する。 ・点と直線の距離の公式を利用する。
	10	第2節 円 円の方程式 円と直線 2つの円	円の方程式 円と直線の共有点の座標 円と直線の位置関係 円の接線の方程式 2つの円の位置関係	・与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解する。 ・円と直線の共有点の座標を求める。 ・円の接線の公式を利用する。 ・2つの円の位置関係を考察する。
	11	第4章 三角関数 第1節 三角関数 角の拡張 三角関数 三角関数のグラフ 三角関数の性質 三角関数を含む方程式、	一般角 弧度法 三角関数 三角関数の相互関係 三角関数のグラフ 三角関数を含む方程式、不等式	・一般角を考察する。 ・弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をする。 ・三角関数の相互関係を理解する。 ・三角関数のグラフをかく。 ・三角関数を含む方程式、不等式を解く。
	12	不等式 第2節 加法定理 三角関数の加法定理 加法定理の応用	加法定理 2倍角の公式、半角の公式 三角関数の合成	・加法定理を利用する。 ・2倍角、半角の公式を利用する。 ・三角関数の合成を理解する。

第3学期	1	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 指数の拡張 指数関数 第2節 対数関数 対数とその性質 対数関数 常用対数	整数の指数 累乗根 有理数の指数 指数関数のグラフ 対数 対数の性質 底の変換公式 対数関数とそのグラフ 対数関数の特徴 常用対数	・ 指数の範囲を実数にまで拡張する。 ・ 累乗根の定義を理解し、累乗根の計算をする。 ・ 指数関数のグラフの概形、特徴を理解する。 ・ 対数の定義を理解し、その値を求める。 ・ 対数の性質に基づいた計算をする。 ・ 底の変換公式を利用する。 ・ 対数関数のグラフの概形、特徴を理解する。 ・ 常用対数の定義を理解する。 ・ 常用対数を利用して。桁数の問題や小数首位問題などを解く。
	2	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 微分係数 導関数とその計算 接線の方程式	平均変化率 極限值 微分係数 微分係数と接線 導関数	・ 平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求める。 ・ 導関数に関する種々の記号を適切に使う。 ・ 導関数の計算。 ・ 接線の方程式の公式を利用する。 ・ 導関数を利用して、関数の増減や極値を調べる。
	3	第2節 関数の値の変化 関数の増減と極大・極小 関数の増減・グラフの応用 第3節 積分法 不定積分 定積分 定積分と図形の面積	接線の方程式 関数の増減と導関数 関数の極大・極小 不定積分 定積分 2つの曲線の間の面積	・ 不定積分の計算方法を理解する。 ・ 定積分の計算方法を理解する。 ・ 定積分を利用して直線や曲線で囲まれた部分の面積を求める。

理 科 シ ラ バ ス

茨城県立神栖高等学校

教 科 名		理科	単位数	2	教科書等	物理基礎 改訂版（啓林館）
科 目 名		物理基礎	教 材 等			
目 標		日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
評価の観点		関心・意欲・態度	思考・判断・表現		技能	知識・理解
観点の趣旨		自然の事物・現象に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらを探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探求する過程を通して事象を科学的に考察し、導き出した答えを的確に表現できる。		観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。
評価方法	学習状況の観察	○	○		○	－
	提出物・課題等	－	○		○	－
	定期考査等	－	○		○	○
観点の重み（％）		2 0	2 0		2 0	3 0

学期	月	単元内容（単元名）		具体的な学習内容
第 1 学期	4	第 1 部 物体の運動とエネルギー 第 1 章 物体の運動	速さと速度	- 物体の変位や速度を理解し、物体の運動を考える。 - 物体の運動を測定し、$x-t$ グラフや $v-t$ グラフで表す。 - 物体の変位や速度などを理解する。 - 等速直線運動を理解する。 - 物体の加速度を考え、等加速度直線運動の $x-t$ グラフや $v-t$ グラフを考える。 - 物体の加速度や等加速度直線運動を理解する。 - 落体の運動の考え、理解する。 - 落体の運動の様子を調べ、$x-t$ グラフや $v-t$ グラフに表す。
	5		加速度	
	6		落下する物体の運動	
	7			
第 2 学期	9	第 2 章 力と運動	力	- 物体の運動に興味をもち、力の性質や力がはたらいたときの物体の運動を調べる。 - 平面内の力のつり合いを考え、合力・分力を考える。 - 重力と垂直抗力など、作用・反作用の関係を具体的な物体にはたらく力としてとらえ、考える。 - 物体にはたらく力を表し、合力・分力を描く。 - 力のつり合いを調べ、弾性力や作用・反作用を力学的な法則を使って分析する。 - 力がはたらいた物体の運動の様子から運動の三法則を確認し、グラフを作成して運動方程式を考える。 - 物体の質量や物体にはたらく力を変えて物体の運動を調べ、運動の様子をグラフに表す。 - 運動の三法則を理解する。 - 物理量の表し方や単位、次元を理解する。 - 力のつり合いや運動方程式から、物体の運動を考える。 - 圧力と浮力の性質について考える。
	10		運動の法則	
	11		運動の方程式	
	12		圧力と浮力	
第 3 学期	1	第 3 章 仕事とエネルギー	仕事	- 仕事が力学的にどのような意味をもつかを理解し、仕事率を計算して、力学的エネルギーとはどのようなものか調べる。 - 仕事、仕事の原理、仕事率という基本的な概念から、力学的な仕事を計算する。 - 運動エネルギーと位置エネルギー仕事を関連づけて考える。 - 一定の条件のもとでは物体の運動エネルギーと位置エネルギーが相互に変換することで、力学的エネルギーが一定に保たれることを理解する。
	2		運動エネルギーと位置エネルギー	
	3		力学的エネルギーの保存	

理科シラバス

茨城県立神栖高等学校

教 科 名		理科	単位数	2	教科書等	改訂高等学校生物基礎（第一学習社）
科 目 名		生物基礎	教 材 等			
目 標		日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
評価の観点		関心・意欲・態度	思考・判断・表現		技能	知識・理解
観点の趣旨		自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。		観察、実験を行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察	○	○		○	－
	提出物・課題等	－	○		○	－
	定期考査等	－	○		○	○
観点の重み（％）		30	20		20	30

学期	月	単元内容（単元名）		具体的な学習内容	
第 1 学期	4	1 編 生物と遺伝子 第 1 章 生物の特徴	生物の多様性と共通生	・地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解する。 ・共通の祖先が長い年月の間に変化して、生物が多様化したことを理解する。 ・生物が共通にもつ特徴を理解する。 ・細胞には原核細胞と真核細胞があること、及びそれぞれの特徴について理解する。	
	5		細胞とエネルギー	・代謝には同化と異化があること、また、代謝に伴うエネルギーの移動にはA T Pが関わっていることを理解する。 ・光合成は、光エネルギーによってA T Pをつくり、このエネルギーによって有機物を合成する過程であることを理解する。 ・呼吸は、酵素の働きによって有機物が段階的に分解されてエネルギーが取り出され、A T Pがつくられる過程であることを理解する。	
	6		第 2 章 遺伝子とその働き	遺伝子の本体の構造	・ヌクレオチドの構造および、塩基の相補性にもとづくD N Aの二重らせん構造について理解する。
	7			遺伝情報の複製と分配	・多細胞生物では、一部の細胞が分裂して増殖していること、分裂している細胞には細胞周期がみられることを理解する。 ・間期の間にD N Aが複製され、細胞分裂を通じて均等に分配されることで、細胞分裂の前後で遺伝情報の同一性が保たれることを理解する。 ・細胞の分裂の各過程で起こる現象を理解する。
			遺伝情報とタンパク質の合成	・生体内には多種多様なタンパク質が存在し、酵素などとしてさまざまな働きをしていることを理解する。 ・タンパク質は、多数のアミノ酸が鎖状につながってできたものであることを理解する。 ・D N Aの塩基配列がm R N Aの塩基配列に写し取られ（転写）、これがアミノ酸配列に置き換えられる（翻訳）流れを理解する。	
第 2 学期	9	第3章 生物の体内環境	体液とその働き	・恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 ・ヘモグロビンによる酸素の運搬を中心に、血液の働きと恒常性について理解する。 ・心臓の構造、血液循環の経路について理解する。 ・腎臓の働きによって、体液中の塩類などの濃度が保たれていることを理解する。 ・肝臓でさまざまな物質の合成・分解・貯蔵が行われて、体液の成分が保たれていることを理解する。	
	10		体内環境の維持のしくみ	・自律神経系には交感神経と副交感神経があり、これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。 ・ヒトの内分泌腺の種類と構造、そこから分泌されるホルモンの作用について理解する。 ・血糖量の調節について、自律神経系とホルモンの相互作用を中心に理解する。	
	11		生体防御	・皮膚や粘膜による生体防御について理解する。 ・自然免疫のしくみを理解する。 ・抗体の特徴について理解する。 ・獲得免疫による病原体排除の流れを理解する。 ・アレルギーや自己免疫病、エイズなど身近な免疫に関する疾患の生じるしくみを理解する。 ・免疫のしくみを用いている予防接種や血清療法のしくみ、近年では抗体医薬が用いられていることを理解する。	
	12				
第 3 学期	1	第4章 バイオームの多様性と分布	植生と遷移	・植生は、相観によって森林・草原・荒原に大別されることを理解する。 ・陽生植物、陰生植物の光合成速度の特徴を理解する。 ・乾性遷移のモデルについて、土壌の形成や光環境の変化などの環境形成作用に注目して理解する。	
	2		バイオームとその分布	・地球上には、それぞれの場所に適応した植物が生育し、いろいろなバイオームが成立していることを理解する。 ・世界のバイオームの種類と分布を理解する。 ・身近な地域の気温と降水量からバイオームを推定し、野外で調査した植生と一致するかどうか確認する。	
	3				

保 健 体 育 科 シ ラ バ ス

茨城県立神栖高等学校

教 科 名		保 健 体 育	単位数	2	教科書等	最新高等保健体育 改訂版	
科 目 名		体育（2 学年Ⅱ類）		教 材 等		最新高等保健体育ノート 改訂版	
目 標		運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めると共に技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正・協力・責任・参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。					
評価の観点		関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能	知識・理解
観点の趣旨		出席を常とし遅刻をせず、公正・協力・責任・参画などに対する意欲を持ち、健康安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。		自己や仲間の課題や状況に応じて、運動を継続するための計画を工夫している。		各領域の運動の特性に応じて、自己の技能を発揮している。	体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、健康安全の確保、豊かなスポーツライフの仕方などを理解する。
評価方法	学習状況の観察	○		○		○	○
	提出物・課題等	○		○		○	○
	定期考査等	－		－		－	○
観点の重み（％）		7 0		1 0		1 0	1 0

学 期	月	単元内容（単元名）		具体的な学習内容
第 1 学 期	4	オリエンテーション 体育理論 体づくり運動・集団行動・体操	・ スポーツの技術と技能	・ 技能とは何かを知り、技術の型によって練習の仕方は異なり、戦術、作戦、戦略について考える 【体操】 ・ 準備運動としてラジオ体操を習得し、怪我の予防に努める。
	5	選択（球技：ネット型・ゴール型） バドミントン・ソフトテニス・バスケットボール・バレーボール	・ 技術の上達過程と練習	・ うまくなるための3つのステップを知り、練習方法の工夫を考える。 【球技】 ・ 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て実生活に役立てる。 ・ チームの課題や自己の能力に応じて個々の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームが出来るようにする。
	6	体育理論 選択（球技：ネット型・ゴール型）		
	7	卓球・フットサル・バスケットボール・バレーボール		
第 2 学 期	9	体育理論 ダンス(フォークダンス)	・ 技能と体力	・ 技能と体力の相互関係と、練習やトレーニングの基本原則を知る。 【ダンス】 ・ ダンスに主体的に取り組み、踊り方の特徴を協調して、音楽に合わせ仲間と対応して踊ることが出来るようにする。
	10	体育理論 陸上競技（中・長距離）	・ 体力トレーニング	・ 体力トレーニングの基礎理論を理解し、トレーニングの計画を立ててみる。 【陸上競技】 ・ 自己の能力に応じて、記録の向上や競争の楽しさ喜びを味わい、技能を高めることが出来るようにする。
	11	選択（球技：ネット型・ゴール型）		
	12	卓球・フットサル・バスケットボール・バレーボール		
第 3 学 期	1	体育理論 選択（球技：ネット型・ゴール型）	・ 体力トレーニング	・ 筋力、持久力、調整力、柔軟性を高めるすべを知る。
	2	卓球・フットサル・バスケットボール・バレーボール		
	3	体育理論	・ 運動スポーツにおける安全の確保	・ 運動スポーツにおける棄権を把握し、棄権を予防する。

保 健 体 育 科 シ ラ バ ス

茨城県立神栖高等学校

教 科 名		保 健 体 育	単位数	1	教科書等	最新高等保健体育 改訂版
科 目 名		保 健（2 学年Ⅱ類）		教 材 等	最新高等保健体育ノート 改訂版	
目 標		個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく脂質や能力を育てる。				
評価の観点		関心・意欲・態度		思考・判断・表現	技能	知識・理解
観点の趣旨		出席を常とし遅刻をせず、毎時間ノートをまとめ、意欲的に学習に取り組もうとしている。		課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。		課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、実生活に活かそうとしている。
評価方法	学習状況の観察	○		○	－	○
	提出物・課題等	○		○	－	－
	定期考査等	－		○	－	○
観点の重み（％）		4 0		2 0	－	4 0

学期	月	単元内容（単元名）		具体的な学習内容
第 1 学期	4	1 単元 現代社会と健康	1．健康の考え方と成り立ち 2．私たちの健康のすがた	・健康については、様々な考え方があり、様々な要因から成り立っていることを理解する。 ・我が国の健康水準は向上を続けてきたが、健康問題は時代と共に変化していることを理解する。
	5		3．健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり 4．生活習慣病とその予防	・適切な意志決定・行動選択をするためには何が重要であるかを学び、健康に係わる環境づくりの重要性を知る。 ・望ましくない習慣をやめる作戦をたててみる。 ・生活習慣と関連の深い病気を生活習慣病と言うが、その予防方法を学ぶ。
	6		5．食事と健康 6．運動・休養と健康 7．喫煙と健康	・食事は健康の基礎であることを知り、健康的な食事をとる必要性を理解する。 ・食生活の改善に役立てるために自分の体型を知る。 ・適度な運動が健康を作ること的理解し、休養の必要性も考える。 ・喫煙が身体に及ぼす大きな影響を理解し、全世界で取り組むたばこ対策を学ぶ。 ・たばこの広告について考える。
	7		8．飲酒と健康	・アルコールが身体に及ぼす影響を理解し、様々な飲酒対策を学ぶ。
第 2 学期	9		9．薬物乱用と健康 1 0．感染症とその予防 1 1．性感染症・エイズとその予防	・薬物は人生を台無しにし、自分の周囲や社会にも悪影響をもたらすことを再確認する。 ・問題となる感染症は、変化していることを知りその予防に社会と個人で取り組むすべを学ぶ。 ・若者の間で問題となっている性感染症・エイズを知り予防法を学ぶ。
	10		1 2．欲求と適応機制 1 3．心身の相関とストレス	・欲求は成長と共に多様化し、心のいろいろな働きを理解する。 ・一体となって働いている心と体に影響を与えるストレスについて学ぶ。
	11		1 4．心の健康のために 1 5．交通事故の現状と要因	・ストレスの様々な対処方法と自己実現が心の健康につながることを理解する。 ・3つの要因がかかわって交通事故が起き、若者では自動車と二輪車の事故が多い事を知る。
	12		1 6．交通事故を防ぐために	・運転者には、資質と責任が必要であり、安全な交通社会づくりが進められている事を学ぶ。 ・安全な生活を送るために私たちがすべきこと、出来ることを考える。
第 3 学期	1		1 7．応急手当の意義とその基本	・適切な応急手当は命を救い、痛みを和らげる事を知り、応急手当の最初のポイントは確認と観察であることを身に付ける。
	2		1 8．日常的な応急手当	・けがに応じた応急手当を学び、熱中症の適切な手当を確認する。
	3		1 9．心肺蘇生法の原理とおこない方	・心肺蘇生法は原理に基づき、適切な手順があることを学ぶ。 ・心肺蘇生法を実習する。

英語科シラバス

茨城県立神栖高等学校

教 科 名		外国語	単位数	4	教科書等	MY WAY English Communication II new edition
科 目 名		コミュニケーション英語Ⅱ	教 材 等		ノート、ワークブック、ファイル、英和辞典	
目 標		英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をするとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な力を養う。				
評価の観点		関心・意欲・態度		思考・判断・表現	技能	知識・理解
観点の趣旨		外国語を用いて他者とコミュニケーションを取ることに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。		外国語を用いて、書いたり話したりすることで、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。
評価方法	学習状況の観察	○		○	○	○
	提出物・課題等	—		○	○	—
	定期考査等	—		○	○	○
観点の重み（％）		2 5		2 5	2 5	2 5

学期	月	単元内容（単元名）		具体的な学習内容
第1学期	4	Lesson 1 Pictograms	・ S+V+O、S+V+C ・ S+V+O (O=if節) ・ S+V+C (C=過去分詞)	・ 積極的な態度でペアやグループでの言語活動ができる。 ・ 聞き手に伝わるように本文を音読することができる。 ・ ピクトグラムの役割を考え、文化の違いを認識する。
	5	Lesson 2 A New Way to Clean Up the Ocean	・ SV0102 (02=if節、that節、what節) ・ it seems that～	・ 積極的な態度でペアやグループでの言語活動ができる。 ・ 海のごみ回収や資源ゴミのリサイクルの仕組みを理解し、挑戦し続けることの意義を考えさせる。 ・ it seems that～の基本的用法を理解し、正しく使うことができる。
	6	Lesson 3 Cuba	・ It is…to 不定詞 ・ It is …that ・ 形式目的語	・ 積極的な態度でペアやグループでの言語活動ができる。 ・ キューバの文化について理解し、日本との相違点・類似点を考えさせる。 ・ It is…to 不定詞の基本的用法を理解し、正しく使うことができる。
	7	Lesson 4 The World’ s Poorest President	・ SVOC (C=動詞の原形、過去分詞) ・ help+O+動詞の原形	・ 積極的な態度でペアやグループでの言語活動ができる。 ・ ウルグアイの文化や「幸せ」についての考え方を認識し深める。 ・ help+O+動詞の原形の基本的用法を理解し、正しく使うことができる。
第2学期	9	Lesson 5 Eye Contact	・ 関係代名詞 ・ 前置詞＋関係代名詞 ・ 関係代名詞・関係副詞の非制限用法	・ 積極的な態度でペアやグループでの言語活動ができる。 ・ アイコンタクト以外に重要なコミュニケーション方法は何か考えることができる。 ・ 関係代名詞の基本的用法を理解し、正しく使うことができる。
	10	Lesson 6 A Space Elevator	・ 現在完了形 ・ 現在完了進行形 ・ 過去完了進行形 ・ 未来進行形	・ 積極的な態度でペアやグループでの言語活動ができる。 ・ 図などを参考にして宇宙エレベーターの複雑な仕組みを理解することができる ・ 基本的な現在完了形原形不定詞の使い方を理解し、正しく使うことができる。 ・ 人間の行っていることのどのような面をモタラの話が象徴しているかを考える。受動態を用いた表現を理解する。
	11	Lesson 7 An Encouraging Song	・ 助動詞 ・ 助動詞＋have＋過去分詞 ・ wouldを使った表現 ・ 完了不定詞	・ 積極的な態度でペアやグループでの言語活動ができる。 ・ 人々を励ます歌とその歌詞に触れ、目的に応じたことばを選択することができる。 ・ 助動詞＋have＋過去分詞の使い方を理解し、正しく使うことができる。
第3学期	12	Lesson 8 Language Contacts	・ 仮定法過去 ・ 仮定法過去完了 ・ ifを使わない仮定法 ・ no matter ＋ 疑問詞	・ 積極的な態度でペアやグループでの言語活動ができる。 ・ 言語接触の例を通じて、言語の特徴やそのとらえ方についての知識を身に付けることができる。 ・ 仮定法過去の使い方を理解し、正しく使うことができる。
	1	Lesson 9 Charles Chaplin	・ 分詞構文(現在分詞・過去分詞) ・ 完了形の分詞構文 ・ 付帯状況のwith	・ 積極的な態度でペアやグループでの言語活動ができる。 ・ チャップリンがスピーチを通して訴えたかった内容を理解することができる。 ・ 分詞構文の使い方を理解し、正しく使うことができる。
	2	Lesson 10 The Five-story Pagoda of Horyuji	・ 同格のthat ・ 倒置 ・ 省略 ・ 強調構文	・ 積極的な態度でペアやグループでの言語活動ができる。 ・ 建造物についての説明文を的確に読み取ることができる。 ・ 同格のthat、倒置、省略、強調構文の使い方を理解し、正しく使うことができる。
	3			

数 学 科 シ ラ バ ス

茨城県立神栖高等学校

教 科 名		数学	単位数	2	教科書等	改訂版 新編 数学A（数研出版）	
科 目 名		数学A	教 材 等		パラレルノート数学A【基本～標準】（数研出版）		
目 標		場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質の考え方について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					
評価の観点		関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能	知識・理解
観点の趣旨		場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。		事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質における数学的な見方や考え方を身に付けている。		場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察	○		○		—	—
	提出物・課題等	○		○		—	—
	定期考査等	—		—		○	○
観点の重み（％）		20		20		30	30

学 期	月	単元内容（単元名）		具体的な学習内容
第 1 学 期	4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 集合の要素の個数、場合の数 順列 組合せ	集合の要素の個数 倍数の個数、樹形図 和の法則、積の法則 順列の総数 順列の考え方の利用 円順列・重複順列 組合せの総数、 nCr の性質 組合せの考え方の利用 組分けの総数	- 和集合や補集合について理解する。 - ベン図を利用する。 - 樹形図、和の法則、積の法則の利用場面を理解しており、事象に応じて使い分ける。 - 順列の総数、階乗を記号で表す。 - 順列、円順列、重複順列の公式を理解し、活用する。 - 組合せの総数を記号で表したり、公式を利用する。 - 組分けの総数を求める。 - 同じものを含む順列を求める。 - 試行の結果を事象としてとらえ、事象を集合と結びつけて考える。 - 確率の性質を一般的に考察する。 - 確率の定義から、その求め方を理解する。 - 確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率も求める。
	5		同じものを含む順列 事象の起こりやすさ 試行と事象、同様に確からしいときの確率、いろいろな事象の確率、いろいろな事象、確率の基本性質、余事象とその確率、一般の和事象の確率	
	6		独立な試行と確率 条件付き確率	
	7	独立な試行と確率 条件付き確率	独立な試行の確率 反復試行の確率、条件付き確率、確率の乗法定理	
第 2 学 期	9	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 三角形の辺の比、三角形の外心・内心・重心、チェバの定理・メネラウスの定理 円に内接する四角形	線分の比と三角形の角の二等分線、三角形の外心・内心・重心、チェバの定理 メネラウスの定理	- 線分の内分・外分、平行線と比などの基本事項を理解する。 - 定理を適切に利用して、線分の比や長さを求める。 - 三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解する。 - 円の基本的な性質を理解している。 - 円周角の定理を理解している。 - 円に内接する四角形の性質を利用する。 - 円と直線の位置関係を考察する。 - 円の接線に関する性質を利用する。 - 方べきの定理を理解する。 - 空間における2直線の位置関係やなす角を理解する。 - 空間における直線と平面の位置関係を考察する。 - 正多面体の特徴を理解する。
	10		円の弧と弦の性質 円周角の定理 円に内接する四角形	
	11	円と直線 2つの円	円の接線、円の接線と弦の作る角、方べきの定理 2つの円の位置関係・共通接線	
	12	第2節 空間図形 直線と平面 空間図形と多面体	2直線の位置関係 直線と平面の位置関係 2平面の位置関係、多面体、オイラーの多面体定理	
第 3 学 期	1	第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 約数と倍数、最大公約数・最小公倍数の性質、整数の割り算と商・余り 第2節 ユークリッドの互除法 ユークリッドの互除法 1次不定方程式 第3節 整数の性質の活用 分数と小数 n進法	約数と倍数、倍数判定法 素因数分解、最大公約数・最小公倍数、互いに素 整数の割り算における商と余り、余りによる整数の分類 ユークリッドの互除法 $ax+by=1$ の整数解	- 約数、倍数の意味を理解する。 - 倍数判定法を理解する。 - 自然数の素因数分解を求める。 - 最大公約数、最小公倍数を求める。 2つの整数が互いに素であるかどうかを判別する。 - 割り算を等式としてとらえる。 - 整数を余りで分類する。 - ユークリッドの互除法を活用する。 1次不定方程式を解く。 - 分数を循環小数で表す。 10進法、2進法について理解す。 - n進法の数をも10進法で表す。
	2		分数と有限小数、循環小数 数の割り算の仕組み 有限小数で表される分数 n進法、底の変換 n進法の小数	
	3		分数と有限小数、循環小数 数の割り算の仕組み 有限小数で表される分数 n進法、底の変換 n進法の小数	

地理歴史 科 シ ラ バ ス

茨城県立神栖高等学校

教 科 名		地歴公民科	単位数	3	教科書等	帝国書院	
科 目 名		地理B	教 材 等		新祥地理B 新詳高等地図		
目 標		現代世界の地理的認識を深めると共に、系統地理的、地誌的な探求の方法を学ぶ学習を通じて、地理的な見方や考え方、地理的技能を身につける。また、現代世界の諸課題について主体的に考え、行動する自覚と態度を養う。					
評価の観点		関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能	知識・理解
観点の趣旨		現代世界の地理的認識を深めるため、系統地理的、地誌的な探求の方法に対して関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、とらえようとしている。		現代世界の地理的認識を深めるため、系統地理的、地誌的な探求方法を考察し、地理的な見方や技能を適切に表現できる。		地図資料等を適切に読み取ったり、図表等を作成することに努めようとしている。	地理的な見方や地理的技能を通じて、現代世界の諸課題について理解し、その知識を身につけようとしている。
評価方法	学習状況の観察	○		○		○	—
	提出物・課題等	○		○		○	—
	定期考査等	—		○		—	○
観点の重み（％）		25		15		15	45

学期	月	単元内容（単元名）		具体的な学習内容
第1学期	4	第Ⅰ部 さまざまな地図と地理的技能 1章 地理情報と地図	1 現代世界の地図 2 地図の種類とその利用 3 地理情報の地図化	・現代世界の地図について、各時代の人々の世界観を理解すると共に、GPSやGISなど現代の地図や交通案内図など身近な地図の有用性を考察し、その過程や結果を適切に表現出来るようにする。
	5	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境	1 世界の地形	・世界の地形について営力的視点からさまざまな大地形や小地形、その他の地形の形成要因について理解し、また、それらが災害と恩恵など、人間生活にどのように関わりを持っているかを考察する。
	6		2 世界の気候	・世界の気候とその形成要因と分布について、気候要素・気候因子の観点から理解する。また、それらが人間生活にどのように関わっているかを考察する。
	7		3 日本の自然の特徴と生活 4 環境問題	・日本の地形と気候の特色を知ることにより、自然災害の発生要因やそのための防災対策の必要性を、資料等を活用しながら理解する。 ・世界の環境問題の概要と対策、地球温暖化、森林破壊、砂漠化の事例、日本の環境問題の特徴と対策について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につける。
第2学期	9	2章 資源と産業	1 産業の発達と変化 2 世界の農林水産業	・産業の発達と変化について、自然環境との関わりやグローバル化に関する考察を基に、産業の発達と変化に対する関心と問題意識を高める。 ・世界の農林水産業について、グローバル化が進む中での現代世界や日本の農業の現状と課題を適切に捉え、課題解決能力を養う。
	10		3 食料問題 4 世界のエネルギー・鉱産資源	・食料の生産と消費の地域的偏りに関する統計や事例などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、食糧問題について考察する。 ・エネルギー資源・鉱産資源の種類と利用法、分布や動向について、資料等を活用しながらエネルギー問題について理解する。
	11		5 資源・エネルギー問題 6 世界の工業 7 第3次産業	・資源エネルギー問題について、生産と消費の不均衡とさまざまな資源・エネルギー問題の動向について考察し、世界と日本の資源・エネルギーの利用に対する興味・関心と問題意識を高める。 ・世界の工業につて、工業の発達過程や立地条件について理解すると共に、世界や日本の工業の現状と諸課題について理解する。 ・商業やサービス業、観光業の動向に関する資料等を分析し、現状と課題等について考察する・
	12		8 世界を結ぶ交通・通信	・交通や通信の発達の状況や一体化の進行、地域差の拡大について、系統地理的に捉える視点や考察奉納について理解する。
第3学期	1	3章 人口、村落、都市	1 世界の人口 2 人口問題 3 村落と都市	・世界の人口について、世界人口の分布や動態などに関する考察を基に、人口構成や人口転換に対する関心と課題意識を高める。 ・世界の人口問題について、発展途上国の人口爆発の要因、先進国や日本の少子高齢化の原因を考察すると共に、どのような対策が必要かを考える。 ・都市の人口や分布、都市の地域構造に関する統計や地図などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、村落と都市について図表などにまとめたりする。
	2		4 都市・居住問題	・発展途上国や先進国及び日本の都市の抱える都市・居住問題の本質を知り、そのための対策等について考える。・
	3			

理 科 シ ラ バ ス

茨城県立神栖高等学校

教 科 名		理科	単位数	3	教科書等	化学（東京書籍）
科 目 名		化学	教 材 等			
目 標		化学的な事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
評価の観点		関心・意欲・態度	思考・判断・表現		技能	知識・理解
観点の趣旨		化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。	化学的な事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。		化学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察	○	○		○	—
	提出物・課題等	—	○		○	—
	定期考査等	—	○		○	○
観点の重み（％）		3 0	2 0		2 0	3 0

学期	月	単元内容（単元名）		具体的な学習内容
第 1 学 期	4	5 編 有機化合物 1 章 有機化合物の特徴と構造	有機化合物の特徴 有機化合物の構造式の決定	・有機物が炭素骨格構造をもつことを知り、骨格の多様性（飽和・不飽和など）から極めて多種多様な化合物が存在することを理解できる。 ・炭化水素の分類（飽和・不飽和、鎖式・環式）と炭化水素基と官能基の組合せを理解できる。 ・示性式と構造式の違いを理解し、構造異性体、立体異性体（シス・トランス異性、光学異性）等について具体例をあげて説明できる。 ・炭素原子骨格に基づく名称と構造の関係（アルカン、アルケン、アルキン）を理解できる。 ・アルカンを中心に異性体について理解できる。 ・一般式等をもとにシクロアルカンとアルカンの類似性を結び付けられる。 ・アルケン（エチレン）の性質と反応（付加反応、付加重合）およびシス・トランス異性について理解できる。 ・アセチレンの製法と性質・反応（アルケンとの類似性）について理解できる。
	5	2 章 炭化水素	飽和炭化水素 不飽和炭化水素	
	6	3 章 酸素を含む有機化合物	アルコールとエーテル アルデヒドとケトン カルボン酸とエステル	
	7		油脂とセッケン	
第 2 学 期	9	4 章 芳香族化合物	芳香族炭化水素 酸素を含む芳香族化合物	・ベンゼンを中心とした代表的な芳香族化合物の構造、製法、性質を理解できる。 ・置換反応、付加反応、酸化反応など芳香族化合物の反応性を理解できる。 ・ベンゼン環の安定性と付加反応に比べ置換反応が起こりやすい特徴を結びつけて考察できる。 ・フェノール類の構造、性質、製法を理解できる。 ・フェノール類とアルコールの共通点、相違点を具体的に述べられる。
	10			
	11		窒素を含む芳香族化合物 芳香族化合物の分離	
	12	5 編 有機化合物 5 章有機化合物と人間生活	食品・医薬品・染料・洗剤	
第 3 学 期	1	1 編物質の状態と平衡 1 章物質の状態	物質の三態 気体・液体間の状態変化	・物質の三態変化について、エネルギー・温度・分子間力の影響について理解・習得し、その具体的なあてはめ方について基本的な知識を身に付けている。 ・気体・液体間の状態変化について、気液平衡・沸騰の現象や状態図を理解・習得し具体的なあてはめ方について基本的な知識を身に付けている。

英語科シラバス

茨城県立神栖高等学校

教 科 名		外国語	単位数	2	教科書等	LEARNER'S ENGLISH GRAMMAR in 21 STAGES
科 目 名		英文法	教 材 等		ノート、ファイル、ワークブック	
目 標		英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をするとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な力を養う。				
評価の観点		関心・意欲・態度		思考・判断・表現	技能	知識・理解
観点の趣旨		コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。		外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。
評価方法	学習状況の観察	○		○	○	○
	提出物・課題等	—		○	○	—
	定期考査等	—		○	○	○
観点の重み（％）		2 5		2 5	2 5	2 5

学期	月	単元内容（単元名）		具体的な学習内容
第1学期	4	Lesson 1 ～ 4 現在時制/過去時制/ 未来表/完了形	基本3時制、進行形、完了形	- 基本3時制の使い分け、進行形、完了形の使い方を理解している。 - 題材に興味を持ち、積極的に言語活動に参加している。 - 学習内容を使用し、意見交換をすることができる。 - 助動詞の種類と使い方を理解している。 - 情報や話し手の意向など相手が伝えようとすることを理解できる。 - 題材に興味を持ち、積極的に言語活動に参加している。 5文型の違いと用法を理解している。 - 情報や話し手の意向など相手が伝えようとすることを理解できる。 - 受動態の使い方を理解している。 - 題材に興味を持ち、積極的に言語活動に参加している。 - 不定詞の様々な形や慣用的な使い方を理解している。 - 題材に興味を持ち、積極的に言語活動に参加している。 - 動名詞の特徴と使い方を理解している。 - 題材に興味を持ち、積極的に言語活動に参加している。
	5	Lesson 5 ～ 6 助動詞	can / may / mustの基本用法	
		OPTIONAL LESSON1 文の形	5文型	
	6	Lesson 7 ～ 8 受動態	基本的な受動態、完了形の受動態 進行形の受動態	
	7	Lesson 9 ～11 不定詞	不定詞の3用法、疑問詞＋ to do	
		Lesson12 動名詞	動名詞の基本用法	
第2学期	9	Lesson13～14 分詞	現在分詞/過去分詞/分詞構文	- 分詞の使い方を理解している。 - 情報や話し手の意向など相手が伝えようとすることを理解できる。 - 比較表現の使い方を理解している。 - 題材に興味を持ち、積極的に言語活動に参加している。 - 情報や話し手の意向など相手が伝えようとすることを理解できる。 - 関係詞の使い方を理解している。 - 学習内容を使用し、意見交換をすることができる。 - 情報や話し手の意向など相手が伝えようとすることを理解できる。 - 仮定法、形式名詞の使い方を理解している。 - 題材に興味を持ち、積極的に言語活動に参加している。 - 学習内容を使用し、意見交換をすることができる。 - 情報や話し手の意向など相手が伝えようとすることを理解できる。 - 接続詞の使い方を理解している。 - 題材に興味を持ち、積極的に言語活動に参加している。 - 学習内容を使用し、意見交換をすることができる。
		Lesson15～16 比較	原級比較/比較級を使った比較/ 最上級を使った比較	
	10	Lesson17～19 関係詞	関係代名詞/関係副詞/非制限用法	
	11	Lesson20～21 仮定法	仮定法過去/仮定法過去完了	
	12	FUTURE STEP1 接続詞	名詞節を導くthat/whether/if	
第3学期	1	FUTURE STEP2 話法	時制の一致 直接話法/間接話法	- 話法の使い方を理解している。 - 題材に興味を持ち、積極的に言語活動に参加している。 - 学習内容を使用し、意見交換をすることができる。 - さまざまな語の役割を理解している。 - 題材に興味を持ち、積極的に言語活動に参加している。 - 学習内容を使用し、意見交換をすることができる。 - さまざまな重要表現を理解している。 - 題材に興味を持ち、積極的に言語活動に参加している。 - 学習内容を使用し、意見交換をすることができる。 - 情報や話し手の意向など相手が伝えようとすることを理解できる。
	2	OPTIONAL LESSON2 語の役割	名詞/代名詞/冠詞/形容詞/動詞/ 副詞/前置詞/接続詞/間投詞 形式主語/形式目的語	
	3	OPTIONAL LESSON3 重要表現	助動詞を含む完了形/完了形の不定詞/ 不定詞を使った重要表現/完了形の動名詞	

教 科 名		数学	単位数	2	教科書等	改訂版 新編 数学B	
科 目 名		数学B	教 材 等		パラレルノート数学B【基本～標準】（数研出版）		
目 標		確率分布と統計的な推測、数列又はベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を 培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					
評価の観点		関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能	知識・理解
観点の趣旨		確率分布と統計的な推測、数列又はベクトルに関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。		事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、確率分布と統計的な推測、数列又はベクトルにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。		確率分布と統計的な推測、数列又はベクトルにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	確率分布と統計的な推測、数列又はベクトルにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察	○		○		—	—
	提出物・課題等	○		○		—	—
	定期考査等	—		—		○	○
観点の重み（％）		20		20		30	30

学 期	月	単元内容（単元名）		具体的な学習内容
第 1 学 期	4	第 1 章 平面上のベクトル 第 1 節 ベクトルとその演算 ベクトル ベクトルの演算 ベクトルの成分 ベクトルの内積	有向線分とベクトル ベクトルの表記、ベクトルの加法、零ベクトル、ベクトルの減法・実数倍・計算・平行・分解成分表示 和、差、実数倍の成分表示 座標平面上の点とベクトル ベクトルの内積 成分による内積の表示	・ベクトルの定義を理解する。 ・逆ベクトル、零ベクトルの役割を理解する。 ・ベクトルの基本計算の仕組みを理解する。 ・ベクトルの平行条件を理解する。 ・単位ベクトルを活用する。 ・成分表示されたベクトルの計算をする。 ・ベクトルの大きさとなす角から、また、成分表示されたベクトルについて内積を求める。 ・ベクトルの垂直条件を理解する。 ・内積の定義からなす角を求める。 ・内積の性質を活用する。 ・線分の内分点、外分点、三角形の重心を位置ベクトルを用いて表す。 ・直線のベクトル方程式を理解する。
	5		ベクトルのなす角、内積の性質、位置ベクトル、内分点・外分点、三角形の重心の位置ベクトル、ベクトル方程式、方向ベクトル・法線ベクトル、媒介変数表示	
	6		空間の点の座標、原点0と点Pの距離、空間のベクトル、ベクトルの分解 ベクトルの成分表示 座標空間の点とベクトル	
	7	第 2 章 空間のベクトル 空間の点 空間のベクトル ベクトルの成分		
第 2 学 期	9	座標空間における図形	2点間の距離と内分点・外分点の座標、座標平面に平行な平面の方程式 球面の方程式	・空間のベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解して、それらを利用する。 ・空間のベクトルを利用して、線分の長さ、分点の座標などを考察する。 ・平面、球面の方程式に興味をもち、一般的な考察をする。 ・数列の定義、表記について理解する。 ・数の並び方からその規則性を推定して、数列の一般項を考察する。 ・等差数列の公差と一般項などを理解する。 ・等差数列の和の公式を活用する。 ・等比数列の公比と一般項などを理解する。 ・等比数列の和の公式を活用する。 ・記号Σの意味と性質を理解し、数列の和を求める。 ・数列の規則性の発見に階差数列が利用する。 ・階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求める。 ・初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解する。 ・初項と漸化式から数列の一般項が求める。 ・数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明する。
	10	第 3 章 数列 第 1 節 等差数列と等比数列 数列と一般項 等差数列、等差数列の和 等比数列、等比数列の和	数列の表記、数列の一般項をnの式で表す 等差数列 等比数列	
	11	第 2 節 いろいろな数列 和の記号Σ、階差数列 いろいろな数列の和	自然数の2乗の和 和の記号Σ 階差数列	
	12	第 3 節 数学的帰納法 漸化式 数学的帰納法	数列の漸化式と項 漸化式から一般項を求める、数学的帰納法	
第 3 学 期	1	第 4 章 確率分布と統計的な推測 第 1 節 確率分布 確率変数と確率分布 確率変数の期待値と分散 確率変数の和と積 二項分布、正規分布	確率変数 確率分布の求め方 確率変数の期待値 確率変数の分散と標準偏差 確率変数の和の期待値 独立な2つの確率変数 二項分布、正規分布	・確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることの良さに気づき、確率分布について積極的に考察する。 ・確率変数の期待値、分散、標準偏差を求める。 ・確率変数の和の期待値を求めることができる。確率変数の独立、従属について理解する。 ・二項分布に従う確率変数の期待値と分散を求める。 ・正規分布の性質を理解する。 ・母集団や標本の特徴を理解する。
	2	第 2 節 母集団と標本 標本平均の分布、推定	全数調査と標本調査、無作為抽出の方法、復元抽出と非復元抽出、母集団分布、大数の法則、母平均の推定、母比率の推定	
	3			

